

ワクワク? ドキドキ?

令和3年10月27日(水)

心を育む生徒指導通信No.6【通算38号】

作成者・教諭 花園修兵

10月も残りわずかとなりました。1年の後半に差し掛かると余計に時の速さを感じてしまいますね。

校内では衣替えとなり、冬服のブレザーを着こなす穴高生は春の4月頃から比べると、少し大人に見える…
かどうかはわかりませんが、(´艸`)成長してきました(笑)

秋の季節は実りの季節です。

○学問と言う栄養を蓄え【**勤勉**】

○毎日コツコツ徳を積んで心を育み【**良識**】

○鋼を打つ覚悟で心身をさらに鍛える【**心身鍛錬**】

我が穴水高校の“校訓”でもあります。実りの秋！ 実りの穴水高校！ それには今回のテーマ「**ワクワク? ドキドキ?**」がヒントになるかもしれません。一読してみてください。



突然ですが…あなたはワクワク派ですか？ それともドキドキ派ですか？ ワクワクとドキドキは何か違います。さて、それは何でしょう。それがわかると日常生活でも使えて自分も、クラスも、チームも互いに高めていくことができると思います。

1998年 夏の甲子園 準決勝 エース松坂大輔率いる横浜高校は高知県代表の明德義塾と対戦した。前日の準々決勝で横浜はPL学園と延長17回を戦い、一人で投げ抜いたエース松坂の肩は腫れ上がり、この日の準決勝の登板は見送られた。8回が終わって横浜は6対0と負けていた。あと2イニングで挽回するのは誰の脳裏にも“不可能”に思っていた。ただし、横浜高校ナインを除いては…

8回裏から甲子園球場の空気が一変する。ノーアウトから2点を返し、2アウト後も驚異の粘りで2点を奪いスコアを6対4とした。そして、**あの伝説の名シーンが生まれる**。誰もがこの試合、松坂の登板はないと思っていたが、腕に痛々しいほどに張り付いたテーピングを破り捨て、9回表に松坂は甲子園のマウンドに上がった。その瞬間、ついに甲子園球場の空気が爆発する。松坂は9回表を0点に抑え、最後の攻撃に望みを繋げた。9回裏の攻撃は何をやってもうまくいった。横浜はさらに2点を追加し同点に追いついた。状況は2アウト満塁 同点の場面を迎える。(あなたはここでワクワクしますか？ ドキドキしますか?)

バッターは**ワクワクが止まりません**でした。結果はセンター前ヒットでサヨナラ勝ちです。翌日の決勝でもワクワクの勢いは止まらず、この年 真紅の大優勝旗を手にしたのは横浜高校でした。そして、当時中学生だった花園少年もテレビを見ながらワクワクが止まりませんでした。



一対あの時何があったのか…それは8回裏に隠された円陣にありました。

あの時、横浜高校を率いる渡辺監督は言いました。「**思いっきり甲子園を楽しめ**」楽しむかってものすごく大切だと思います。しかし、中高生くらいだとこれを勘違いしてしまって、ふざけ…の方に行ってしまうこともあります。「**勝負を楽しむ**」という習慣が彼等にはありました。だから、ドキドキよりもワクワクが勝つんです。ここで同点に追いつけばワクワク…ここで逆転すればワクワク…ここで俺が決めればワクワク…といったように、一人のワクワクがチームのワクワクとなり、さらには甲子園球場全体をワクワクの空気にし、ついにはテレビ画面を越えて、その場にいない人間をもワクワクにさせたんです。

あなたは何をする時にワクワクしますか。ワクワクすることはありますか。新人大会でこうなるんだ！ 未来の自分はこうなんだ！ と思いながら、ワクワクしながら練習や勉強してみるのもいいですね。

穴高 ありがとうの輪 No.13

2B・K.K さんから

2B・Y.Y さんへ ありがとう。

いつもみんなを笑わせてくれてありがとう。

これから生徒会の役員として、一緒に穴水高校を盛り上げていこう！！

